

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200054		
法人名	株式会社 GAKUSAN		
事業所名	グループホーム のりこハウス		
所在地	恵庭市駒場町6丁目1番1号		
自己評価作成日	平成25年3月29日	評価結果市町村受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0191200054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のりこハウスの理念は、『医療・福祉・介護の連携を図り人々の心を支えます。人の辛さを思いやり慈愛の気持ちをもって地域に役立つことを目指します。』である。施設にクリニックが併設され、クリニックの院長・副院長が施設の代表者・施設長を兼務している組織体制から、入居者の情報や状態の把握が医療・施設で共有できている為、医療と福祉の連携が図られている。今後も良い連携体制を構築するべく様々な状況に応じた対応を進めている。のりこハウスは1階が小規模多機能施設、2階がグループホームとなっており、行事や研修、利用者様、入居者様の個別のニーズに添った支援を行うための協力体制、関係づくり、資質の向上も図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのりこハウス」は、JR恵庭駅近郊の幹線道路に面した交通の便が良い場所に位置している。同法人が経営する小規模多機能ホームが1階に併設しており、運営推進会議や避難訓練、利用者の見守りなどの面で協力しながら全職員で温かなケアに取り組んでいる。清潔感のある広々とした共用空間は、季節を意識した温かな装飾を加えた簾などで仕切りを作り、テーブルや椅子を数か所に配置して、他の利用者の気配を感じながらも一人になれる場所を確保するなど、利用者が過ごしやすいように環境整備に配慮している。役職者として2年目を迎える管理者は、職員と共に日々向上心を持って運営やケアを行っており、前回の外部評価の課題に対しても、改善に向けて積極的に取り組んでいる。協力医療機関の緩和ケアクリニックの院長である代表者は、グループホームで可能な限り看取りにも取り組むなど、医療面でも利用者や家族、職員の安心感につながっている。アロマセラピーやリフレクソロジー、いろいろな作品作りなどのボランティアを積極的に受け入れたり、日常的な散歩の他、市内のグループホームとの定期交流会や外出行事のお花見、温泉や外食など、利用者に多くの楽しさを提供しているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に掲示し、職員の名札の裏にも記載している。各職員はその理念を共有し、実践に取り組んでいる。	「慈愛の気持ちをもって地域に役立つことを目指します」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた法人理念を作成している。毎月のスタッフ会議で、法人代表から理念についての話があり、各職員も内容を再確認する機会になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事などを町内会に案内し、参加をしていただいたり、町内会行事に参加させていただく等の交流がある。また、毎月ボランティアの方々がホームに訪れてくれており、色々な活動を支援してくれている。	日頃から、利用者と一緒に近隣のお店に買い物に出かけて積極的に交流を深めている。地域のお寺や蕎麦屋の協力を得て、花まつりやそば打ちなどの事業所行事も行われている。今後は、子供達との交流も少しずつ進めて行きたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事や施設の行事など参加する場面での意思表示や行動についての対応を見て頂いたり、施設に見学にこられた方に対して理解や支援の方法について伝えている。その他、就業体験学習(インターシップ)を通して、認知症についての情報を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、市職員、消防署職員、地域包括支援センター職員、入居者家族などに参加して頂き、取り組みや実態についての報告を行っている。それらに対する意見やアドバイスを施設のサービス向上に役立てている。	全家族に会議案内を送付し、同法人の小規模多機能ホームと合同で、事業所の報告や、現状の課題と今後の取り組みなどを議題に2か月毎に開催している。外部評価の結果報告も行われている。今後は、議事録も全家族に送付する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括ケア会議、運営推進会議を中心に市役所との連携を図っている。通年雇用支援事業に関わる実習生の受け入れも行っている。	管理者は、更新認定の申請などで市役所を訪問した時や、運営推進会議の機会に情報交換をしている。入退去状況を報告すると共に、電話で各種書類の記入方法について問い合わせる機会もあり、日頃から連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは我々の最も大事にしている理念の一つである。身体拘束禁止行為11項目の掲示と、身体拘束に対するマニュアルを職員がいつでも目に出来る状況をつくり、適切な理解が図れるよう日々取り組みを行っている。ただ、身体拘束に含まれるベッド柵の使用については、利用者の身体状況により起居動作等で必要な場合は、一部使用を行っている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含むマニュアルがあり、外部研修などの報告会も行われているが、職員間でマニュアルを再確認する機会が少なく、内容の把握が不十分な面も見られる。管理者は、拘束につながるような言葉使いがあれば、その都度注意をしている。エレベーターは、夜間のみ安全面から施錠している。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について、全職員で内容を再確認して、更に理解を深めるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう入居者と対話したり、言動・身体状況等を注意深く観察している。職員は日々の生活や会議時に確認し合い情報を共有し防止に努めている。又、同業者との情報交換を行い意識向上にも繋げている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、理解を高め、必要な状況が生じた際には速やかに対応がとれるようにしている。また、ご家族様に対しての情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明については、時間をかけて話し合いを行い、納得いただける状況は確保されている。ただ、入居者本人は理解出来ない事が多く、ケースの主体は家族となっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や電話により、意見・要望をいただいていて、必要と認めたものについては、運営に反映させるよう取り組んでいる。玄関にはご意見箱も設置されている。	毎月発行している個別便りや、家族の来訪時に利用者の様子を報告して、意向や意見を聞き取るようにしている。家族からの意見は、支援経過記録や連絡ノートに記入しているが、記入が徹底されていない面もあり今後の課題と捉えている。	家族からの意見や要望、言葉に出せない思いなども把握しながら個別に記録するなど、記録方法を工夫して、各家族の思いを全職員で把握できるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のスタッフ会議、ユニット会議、管理者ミーティング等意見を聞く機会を設けていて運営に反映している。また、職員の意見や提案を聞く体制をとり、その反映を図っている。	管理者は、日頃から職員と話す機会を持ち、意見や提案を運営やケアに活かしている。施設長と職員の個別面談も行われている。リーダーを中心に、各職員が係を分担をして積極的に運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や労働時間に関しては、最大限の努力をしている。やりがい等に関しては、個々の希望を聞くなどスタッフ満足を得られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会への参加等研修の機会は確保されている。職員個人の力量に合わせた指導・助言を適宜に行い、日々のトレーニングを行っている。また、専門のアドバイザーに定期的に来て頂き、職員教育のために助言を頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度行われる市内のグループホームネットワークの会に出席しており、研修会を通じて同業者との交流や勉強会の機会を得ている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に出来る限り本人と会話をする機会を作りながら、安心して話が出来る関係を築き、本人が自分の思いを言動で表わしやすい状況をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会う機会、話す機会を多用し、まずは安心して話しが出来る環境を作るよう配慮している。話しをしやすい状況をつくりながら傾聴し、状況に応じた返答やアドバイスを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人・家族の要望を聞き、生活状況・家庭状況等を照らし合わせたうえで、他サービス利用を含めた支援体制の提案を行っている。その後再度サービスの必要性や支援の内容について話し合いを持ち、支援体制を作っていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに相談や提案等を行いあえるよう、共同生活者としての関係を築けるように配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、毎月のお便り、面会時や電話の際に近況をお伝えしたり、家族の要望を確認する等情報交換を行い、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人がこれまで過ごしてきた関係性を大切に、家族と協力しあいながら支援につとめている。	近隣に住んでいた知人が来訪したり、毎週友人が訪ねて来る利用者もあり、来訪を心待ちにしていた様子などを話しながら、馴染みの関係が継続できるように支援している。家族支援の下、食事や理美容室、お墓参りなどにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士はもとより、共同生活している全員が支え合い、関わりを持てるよう支援することに努めている。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡によるサービス終了や、入居者が入院した場合には、お見舞いに行くなど関係性の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにて把握している。本人や家族から得た新しい情報についてはアセスメントシートに蓄積してケアに生かせるようスタッフ間で共有している。	日々の会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。介護計画の見直しに合わせて、3か月毎にアセスメントシートを更新して情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、紹介先の担当者から情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の生活に対して、話の中で本人の状態を把握したり、家族と対話を行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状では計画作成担当者が本人や家族、医療関係者の意向を踏まえ計画を作成し、介護者は日々の観察に基づき会議等で検討している。日々の介護記録、毎月のモニタリングにより現状に即した介護計画となるように進めている。	担当職員が行う毎月の評価と、家族や本人の意向を踏まえて、3か月毎に全職員で検討して介護計画の見直しを行っている。介護計画は、家族および可能な限り本人にも説明している。介護計画と日々の記録が連動した記入方法には、課題も残されている。	介護計画と日々の記録が連動するような記録方法を検討し、日々の記録が、介護計画の見直しに更に活かされるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録記入は実践され情報の共有はできている。記録の方法や情報の共有方法等は常に検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズやニーズの変化に対して柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりが必要としている地域資源について把握し個々にあった地域資源を活用できる支援を行う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視しながら、適切な医療が受けられる状況は確保している。状況により家族への提案や調整もできている。施設にクリニックが併設されており、かかりつけ医としている入居者も多く、連携や速やかな対応が図りやすい。	かかりつけ医を継続する場合は、基本的に家族が受診支援を行っている。受診時に、口頭で日々の様子を家族に伝えているが、必要に応じて職員も同行して適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は、往診、外部医療機関と分けて個別に記録している。	

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師であるため、情報伝達、相談等は円滑に行われている。そのため、適切な受診、看護を受けられる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談事の対応は図られている。入退院時によらず、日常的に病院関係者との連絡や調整を行っており、関係づくりが行えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、併設クリニックの協力を得て、家族とともに話し合いの場を持ち、本人の希望を大切にしながら、医療・福祉・家族の役割領域を明確化し、方針の共有、実践を行っている。	「医療連携、重度化(看取り)に関する指針」を作成して、利用開始時に説明している。健康状態の変化に応じて、法人代表である院長が家族と対応方針を検討し、希望に応じて可能な限り看取りを行う意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームネットワークの会が開催する研修へ参加し準備を整えている。また、スタッフ会議時に医療者である代表・施設長の指導も行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、災害時の対応方法を消防署の参加・指導の下、また町内会の協力もあり、連携も図れている。運営推進会議等を通して避難が必要な事態が発生した際の対応検討も行われている。非常時の水や食料の準備も確保している。	年間2回、消防署の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、町内会役員も見学している。災害備蓄品の整備も行われている。今後は、地震時の対応についてマニュアルを基に職員間で話し合いを行うと共に、町内会との協力体制を明確にして、地域住民も参加した避難訓練を実施する意向である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、日常生活や会議等で話し合いを持ち、個別対応できるよう職員全員で取り組んでいる。	利用者への呼びかけは「さん」付けを基本とし、利用者への対応で気になる点があればすぐに注意している。個人ファイル等は、事務所スペースの鍵のかかる戸棚に安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自らの思いや希望を表現できる環境になるよう心がけて支援している。自己決定についても、自分で決定できる雰囲気づくりになるよう配慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者の希望にそった対応をこころがけている。職員の都合上対応が取れない場合には、話しあい、理解をいただけるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら選び着ている服を褒める等の声かけや、外出時や行事の時には、化粧と一緒に服を選んでお洒落を楽しめるように支援している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にメニューを考えたり、嗜好や希望を反映させ食事を提供している。調理や片づけ等入居者に参加してもらい食事意欲や関心を高められるようにしている。	利用者の能力に応じて、調理や後片付けなどを手伝っている。食材を発注する時点で利用者の希望を反映し、食材を買いに行く時も、利用者が同行することがある。職員も一緒に同じ食事を摂っている。時には外食や出前も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や食嗜を含めた個々の適切な食事形態を把握し対応を図っている。水分については、飽きないよう数種類のメニューから本人に決めてもらい提供し、必要量の摂取量が出来るよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを日課としている。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助の対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンや能力に応じた支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用を最小限にできるよう支援している。	日々の記録に排泄状況を記録し、利用者全員のパターンを把握している。誘導が必要な方は3分の1程度で、声かけの際はプライバシーに配慮している。全員が、昼夜とも可能な限りトイレで排泄できるよう、声かけのタイミングに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便状況を把握し個別の状況に応じた対応を実施している。水分量や、運動量にも配慮している。また、必要に応じて看護師のアドバイスを頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後に設定しているが、要望に応じ午前中も可能である。また、本人の希望にそって毎日入浴することも出来る。	午後を中心としているが、希望があれば午前も入浴が可能で、各利用者が希望に沿って概ね週2～3回の入浴を行っている。入浴剤を使用したり、入浴中に歌を歌うなど楽しめる工夫をしている。湯加減や入浴の長さも個々の希望に沿っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら夜間に安眠でき、さらにメリハリのある生活ができるように支援している。休息も希望にそって対応・支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情で目的や用法、用量、副作用について確認している。服薬についての不安や疑問は看護師や訪問薬剤師に確認しアドバイスをもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の持てる能力に応じた家事等の参加を促したり、楽しみや気分転換が持てるよう心がけ、日々の支援や行事等計画し実践している。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画を作成し、実践している。天気の良い日は散歩や日向ぼっこ等気分転換を図っている。個別の希望がある場合にはご家族と協力しあい対応を心掛けている。	日常的には周辺を散歩したり、ホームの畑に出かけたり、庭先で外気浴を行っている。年間計画を立てて、お花見や温泉に出かけたり、市内の他のグループホームとの交流会、町内の運動会、紅葉狩りやりんご狩りなどの行事を行っている。年2回の外食行事で、回転寿司や蕎麦屋に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力に応じて所持していただいている。金銭管理の困難な方には、施設管理により対応・支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立度の高い利用者は自ら電話使用を行っている。自ら出来ない利用者に対しては、個別能力に応じた支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快な思いをしないように常に清潔を維持している。窓からの陽ざしが適度にはいり、居心地よく落ちつける環境であるよう配慮している。	全体的に広い造りで、中心に共用の広い居間と食堂があり、周りに居室や職員スペース、コミュニティスペースがある。壁には季節の装飾があり、コミュニティスペースの周辺は利用者が一人でゆっくり過ごせるような空間づくりを行っている。トイレや浴室、洗面所が使いやすく、温度、湿度も調整され居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当施設の特徴を生かし、共有空間の改善を実施し、人の気配を感じる事ができ、一人になれる場所をつくる等の工夫を実践している。また、利用者同士がくつろげるスペース造りなどに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持参し、個々の落ちついた生活空間となるよう、入居者の意思を尊重し室内空間を整えている。	居室入口には個々の干支のイラストが掲げられている。室内には利用者がテレビやタンスなど馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも、カレンダーや作品などを自由に飾り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺り完備で自由にかつ安全に行動が出来、本人の持てる能力に応じた支援を心掛けており、また、定期的に施設長が巡回し、修繕・改善が必要な個所を確認し、自立した生活が送れるように配慮や工夫を行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム のりこハウス

作成日：平成 25年 5月 8日

市町村受理日：平成 25年 5月 20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	10	家族からの意見や要望、言葉に出せない思いなども把握しながら個別に記録するなど、記録方法を工夫して、各家族の思いを全職員で把握できるように期待したい。	入居者はもちろん、家族の思いを把握し、日々の支援に努められるようにスタッフ一同取り組んでいく。	家族とのコミュニケーションを大切に考え行動するとともに、その時に得られた言葉や表情から読み取れた情報を職員が共有できる体制、記録方法を構築する。	3ヵ月～ 1年
2	26	介護計画と日々の記録が連動するような記録方法を検討し、日々の記録が、介護計画の見直しに更に活かされるように期待したい。	介護計画と介護記録の更なる連動性を目指し、より良い支援へと結び付けられるように継続的に改善を進める。	記録用紙の見直しや記録方法の勉強をスタッフ全員で実施する。	3ヵ月～ 1年
3	6	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について、全職員で内容を再確認して、更に理解を深めるように期待したい。	今後も身体拘束が行われない職場を継続できるように理解を深め、行動できる集団作りを行う。	掲示物やマニュアル等は見やすい位置に変更し、マニュアルも見やすくまとめる。また、言葉だけでなく行動で理解を深められるように事例等を利用し、全員で考える時間を会議等定期的に作っていく。	3ヵ月～ 1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。